

宝くじ販売促進策紹介

サマージャンボ宝くじ等 特設売場の紹介

このコーナーでは、宝くじの販売促進策のうち、地方協会の協力を得て実施しているサマージャンボ宝くじ等特設売場（以下「特設売場」という。）について紹介します。

この取り組みは、サマージャンボ宝くじ等の発売期間中、市役所や役場・公共施設内の売店、地域の物産店等に特設売場を設置して、サマージャンボ宝くじ等を販売いただくというものです。今年度は全国で31道府県143売店に特設売場を設置いただき、販売促進にご協力いただきました。その中で、今号では富山県富山市の「地場もん屋総本店」と「富山市ファミリーパーク」の2つの特設売場を紹介します。

地場もん屋 総本店

富山市^{そらがわ}総曲輪の商店街内にある「地場もん屋総本店」は、富山市で生産活動を行っている生産者が直売会員となり、富山県の野菜産出額向上と安心な食材での地産地消を目的として設立された富山市農林産物アンテナショップです。

地元に住んでいる方々を中心に1日に約700人が来店する同店は、取材に伺った日も、店内に並ぶ新鮮な野菜などを買いに来られた方々で賑わっていました。

「地場もん屋 総本店」では、富山市からの呼

びかけのもと、昨年度に引き続き本年度も特設売場を設置いただきました。店内に入ると、レジのそばにサマージャンボ宝くじ等ののぼりが設置されていて、そののぼりを見た来店者がサマージャンボ宝くじ等が販売されていることに気づいて購入される方が多いとのことでした。

売場担当者からは、「来店者の関心も高く、接客するうえで話題提供にもなることから、来年度以降も販売していきたい。」と話していただき、「売上を伸ばすために、常連のお客さんにもっと興味を示してもらえるよう何か工夫ができれば。」と来年度以降の意気込みを語っていただきました。



サマージャンボ宝くじ等の販売の様子

富山市ファミリーパーク

「富山市ファミリーパーク」は、富山市の西、呉羽丘陵の城山公園内に位置しています。園内には動物園や遊園地、バーベキューコーナーなど多くのエリアがあり、県内からのお客さんを中心に年間約33万人、昭和59年の開園以来約840万人が来園するなど多くの方々に親しまれています。

「富山市ファミリーパーク」では、富山市からの呼びかけのもと、昨年度に引き続き特設売場を設置いただきました。

宝くじは、園内の無料エリアにある自然体験センター内の「かふえ ムー」という飲食・販売

施設で販売されておりました。場所柄、家族連れや高齢者が中心とのことですが、園内で宝くじを売っていることを知らなかった人がほとんどで、たまたまふらっと立ち寄ったお客さんが購入されることが多いとのことでした。「この売場に来たのも何かの縁である。」と言って買っていかれた方もおられたようです。

飲食施設である「かふえ ムー」では、食べ物などを作りながら宝くじを販売されています。取材に伺った日も、売場の方が一人で食べ物を作りつつ宝くじ販売業務を行われていました。売場担当の方からは、「土日祝日などの忙しい時は売場を2人体制にして対応しているため、特にトラブルや負担もなく宝くじの販売ができています。来年度以降も設置したい。」と話していただきました。



サマージャンボ宝くじ等の販売の様子

今回は、富山県内の2つの売場を取材させていただきました。富山県内の特設売場の数は、平成28年度（15箇所）、29年度（17箇所）とも全国最多です。これは、富山県市町村振興協会が、特設売場の設置に積極的に取り組んでいただいていることによるものです。特設売場の設置について、各種会議において設置の要請を行ったり、富山市の関係施設を回って売場設置のお願いをするなど積極的に広く呼びかけていただきました。

また、サマージャンボ宝くじ等の広報宣伝として、新聞や県内市町村広報紙への広告の掲載など様々な販売促進策も併せて行っているとのことでした。

富山県市町村振興協会からは、「特設売場を

増やすことができれば少しでも売上が伸びると思う。サマージャンボ宝くじ等の売上増加のため出来ることは何でも取り組んでいきたい。」とお話いただきました。今年度の申込に間に合わなかった施設から、来年度は特設売場を開設したいという声も既にながっているようで、来年度以降も特設売場の設置に向けて積極的に取り組んでいくとのことでした。

各地方協会におかれても、サマージャンボ宝くじ等の広報活動に積極的に取り組んでいただいたところですが、こうした取組みが全国的に広がることによって、サマージャンボ宝くじ等を購入する方々の利便を図り、売上げが伸びることを期待します。